

# 中経連「キャリア教育共創プログラム」大学ニーズリスト(様式3)

NO	新規 継続 分類	2024年 度 該当No	希望する講師の業種・属性等	テーマ	講義等の目的・狙い	内容	講義形式	受講予定学生数	その他
①学生のキャリア形成に資する経験・体験談									
2024-1	継続	2023-1	不問	様々な業界や職種について社会人の方からお話を聞こう	学部1年生に、多様な業界・職種についての見識を広め、学生時代のキャリア形成の参考にしよう	3種程度の異なる業界や職種の方に、交代でその特徴ややりがい、短所長所等をご紹介いただく	対面・オンライン	約260名	生物資源学部(農学部・水産学部系)の卒業後進路となる代表的な業種・属性からなるべく幅広く組み合わせさせていただけると有り難いです
2024-2	新規		出版・印刷業(新聞、雑誌、テレビ等の記者の方)	表現・報道の自由と名誉の保護～実務の視点から	法学部の学生に、出版業界の実務の視点で、表現・報道の自由と取材対象者の名誉の保護とのバランスの取り方についてご教示いただきたい	法学部1・2年生向けに、取材活動や記事執筆の際、どのような点を意識しているか、犯罪被害者への取材の場合に配慮していること等をお話頂きたい	対面・オンライン	1,2年ゼミ生 約30名	刑法の名誉毀損罪や侮辱罪、プロバイダ責任制限法等についてはある程度説明できているのですが、教科書的な説明しかできない部分があり、現場の方がどのような点を意識して取材活動をされているのか、『表現・報道の自由と取材対象者の名誉の保護との関係についてどのように考えられているのか』、また『犯罪の被害者やその周囲の人たちを取材する場合にどのような配慮をされているのか』など、現場の生の声をお聞かせいただければありがたい
2024-3	継続	2023-3	人事担当者	キャリア形成 学生に求めるもの/採用について	学生のキャリア観の醸成	講義、座談会	①対面授業 ②対面授業	①250名 (総合政策学部) ②20名(ゼミ)	
2024-4	新規	2023-4	マーケティング担当者、 人事担当者	マーケティング、人材開発	企業経営の実例を知ってもらおう		対面授業	100名 (総合政策学部)	
2024-5	新規		BtoBの製造業で海外に生産拠点や販売拠点を持っている企業の方	わが社のものづくりとグローバル化	学生がものづくりに関心を持つとともに、国際的な視野を広げること。	1)当該業界の構造とその企業のものづくりの特徴、2)国際展開の状況、3)採用においてどのような人材を求めているかについて	対面授業	30名程度	講師は、可能であれば文系出身で、営業・生産管理・購買・人事等を担当している方を希望
2024-6	継続	2023-10	金融・保険業、不動産業、 商社、製造業、インフラ、IT 等 可能であれば女性	社会と業界を知り、 将来のビジョンを描く	様々な業界の外部講師から、各業界の社会的役割、仕事内容とやりがい、仕事で必要とされる知識や能力、学生時代にしておくべきこと等を聞くことで、自分の将来ビジョンにつなげる。	・当該業界や企業が社会において果たす役割 ・仕事内容とやりがい ・仕事で必要とされる知識や能力	対面授業	約50名	1つの科目の枠内で1企業につき1回ないし2回(1回=90分)実施していただくことを希望する。3年生対象の授業を中心に考えているが、1年生、2年生対象についてもお願いする場合がある。
2024-7	継続	2023-11	製造業、情報通信業等の 機械、電気、情報系技術者	初年次導入教育 キャリア形成講座	1年次から今後のキャリアについての意識を高める	講師の方が企業で働いていて感じていること(良いこと、悪いこと、学生との違いなど)やご自身の大学生活を振り返り、社会人として働くうえで役に立っている経験、やっておけばよかったこと等、実体験を踏まえてお話しいただきたい。リアルなお話をさせていただくことで、学生が大学4年間を目的、目標を持って過ごすきっかけとしたい。	対面授業	約300名 (学部1年)	企業でのことはもちろん、プライベートや生活に関連したことも含めてお話を頂きたいと考えています。就職という観点のみに留まらず、今後の人生を考えるキャリア形成講座の実施を希望します。
2024-8	継続	2023-14	業種不問、35歳前後の男女 若手・中堅社員。	社会人に学ぶキャリアデザイン	適切な企業理解と職業観、勤労観、キャリア意識の醸成	講師自身のこれまでの「キャリア・就職・仕事」や「結婚・出産・育児」等について考えてきたことやその経験談、これから社会に巣立つ学生へのアドバイス等を講義いただければと存じます。	対面授業	名古屋:180名 豊橋:50名 (学部2・3年)	業種不問、35歳前後の男女若手・中堅社員。
2024-9	継続	2023-16	理系の大学院を修了された方	学生と社会人の違いを気づかせ、自己成長を促したい	学生にキャリアパスについて意識させ、社会で働くことについて考えさせたい	社会で働くことの意義や社会で成功する人の思考法について紹介いただきたい	オンライン、対面授業の順に希望	50名程度	
②就職ガイダンス									
2024-10	新規	2023-18	採用担当者もしくは、採用 ご経験者	社会で求められる人材像・社会人として必要な能力	学生に社会人として必要とされる能力等を学ばせる	①2、3年生向け 社会で求められる人材像・社会人として必要な能力についてお話しいただくとともに、実際の採用の際の評価ポイント等についてもお話しいただきたい ②4年生向け 、社会で求められる人材像・社会人として必要な能力についてお話しいただくとともに、社会に出る上での心構えについてお話しいただきたい	対面授業	①15名前後 ②15名前後	
③社会・経済・業界の動向、時宜に沿ったテーマ									

NO	新規継続分類	2024年度該当No	希望する講師の業種・属性等	テーマ	講義等の目的・狙い	内容	講義形式	受講予定学生数	その他
<b>④企業実務(制度・財務・ビジネススキル等)</b>									
2024-13	継続	2023-23	文化の異なる人たちと一緒に働く経験があり、実体験とともに具体的なコミュニケーションスキルなどについてご教授いただける方	異文化コミュニケーション	職場での多文化化が急速に進む中で、国籍や文化の異なる人たちが協働するのに必要な心構えやスキルを学ぶ	秋学期(10月～1月末)期間中に1時間程度の講演・グループワークをしていただきたい	対面・オンライン	110名(全学部対象)	可能であれば、大学の教職員も、SD研修として受講させていただけるとありがたい
2024-14	継続	2023-24	職場の人事制度や人材育成に関する立場や理念を説明できる方。	職場における人材育成	会社における実際の人事制度について、人事制度および人材育成の理念などについて学び、人事心理学の理解を深める。	秋学期(9月末～1月末 木曜日9:00～10:30)期間中の1コマで1時間程度の講演をしていただき、その後質疑応答10分、講演の感想レポート作成20分。	対面授業	30名(人文社会学部心理教育学科学部3年)	
2024-15	継続	2023-25	製造業	経営計画の策定と予算編成に関わる仕事のやりがい	学生に管理会計の実践に対して興味を抱かせる。	・企業紹介 ・管理会計が経営にどのように役立っているのか、実務でのご経験にもとづいてお話を頂戴したい。	対面授業	約20～80名	経営のための会計について学ぶことの意義を、学生へのメッセージとして頂戴できればと思います。
2024-16	継続	2023-27	不問	ひと、もの、かね、情報等、ものづくりにおける各種の管理(品質管理、生産管理、設備管理、在庫管理、原価管理、財務管理、人事管理、労務管理など)に関する実際の理解	理論的内容に加えて、実際的内容の理解に基づく、知識の応用・展開	講義のテーマに関して、企業・社会の実践例を中心に、実際の施策、制度、活動等を紹介・解説。	対面授業	50名程度(学部3年)	
2024-17	継続	2023-28	不問	創造的な問題解決過程の理解と応用(問題解決論)	理論的内容に加えて、実際的内容の理解に基づく、知識の応用・展開	講義のテーマに関して、企業・社会の実践例を中心に、実際の施策、制度、活動等を紹介・解説。	対面授業	50名程度(学部3年)	
2024-18	継続	2023-29	不問	人事労務管理の要点理解(人事労務管理)	理論的内容に加えて、実際的内容の理解に基づく、知識の応用・展開	講義のテーマに関して、企業・社会の実践例を中心に、実際の施策、制度、活動等を紹介・解説。	対面授業	50名程度(学部3年)	
2024-19	継続	2023-30	不問	組織における集団・従業員の心理・行動理解(組織行動論・産業組織心理学)	理論的内容に加えて、実際的内容の理解に基づく、知識の応用・展開	講義のテーマに関して、企業・社会の実践例を中心に、実際の施策、制度、活動等を紹介・解説。	対面授業	50名程度(学部3年)	
2024-20	継続	2023-31	不問	社会システムあるいはその下位システム(ものづくり、経営に、産業)に関する理解とマネジメント技術(経営工学概論)	理論的内容に加えて、実際的内容の理解に基づく、知識の応用・展開	講義のテーマに関して、企業・社会の実践例を中心に、実際の施策、制度、活動等を紹介・解説。	対面授業	50名程度(学部3年)	
<b>⑤技術開発の方法、専門知識</b>									
2024-21	継続	2023-33	熱機器の研究・開発に携わる方(経験を話していただけ関係上、相当年数の就業実績は必要)	熱機器の開発に関わる諸問題(話題提供)	熱機器の開発において現場での苦悩や工夫について情報共有いただき、学生に実際の開発でどのような基礎知識を活用するのかを効果的に伝える	B3開講科目「応用熱工学」での特別講義1コマ分を想定(テーマは自由)	対面授業	120～140名(学部3年)	前半10単元分はオムニバス形式での座学(熱エネルギー利用、熱エネルギーへの変換、計測技術など)を提供し、後半の3～4単元分を外部講師による特別講義としており、毎年、企業あるいは大学より外部講師を招いて実施している。
2024-22	継続	2023-34	自動車、精密機器、半導体、医療機器	MEMSや医療機器の製品開発について	学生に対して、MEMSや医療機器開発における最先端方法を学んでもらう	①基礎研究以降の製品開発、②商品化、③シーズとマーケットのニーズをつなぐという大学では説明が難しい部分をご説明して頂けるとありがたい	対面授業	20-50名程度	大学では基礎的な研究面に強みがあり、基本的な原理を構築することが得意である。一方、昨今では、社会に新しい価値を提示し、新たな産業を創出することも、大学の役割として求められている。ここでは基礎研究以降の企業での製品開発と商品化、さらには技術シーズをマーケットのニーズとつなぐ部分を説明して頂くことで、大学においてイノベーションを起こすことが可能な人材を増やすことを狙いとしている。
2024-23	継続	2023-35		クラウドコンピューティング	実際のデータセンターの運用事例の話	クラウドコンピューティングの現場の話をかせる	対面授業	20名	
2024-24	継続	2023-36	対個人もしくは対企業にネットワークサービスを提供している企業の方	ネットワーク、性能評価、待ち行列理論、トラフィック理論、ネットワーク運用、SLA	情報ネットワークの性能評価手法の基礎を学ぶ	ネットワークサービス提供者の立場で、性能をどう考え、どう運用管理しているか、実情を90分程度でお話していただきたい	対面授業	30名程度(博士前期課程)	実際のネットワークサービス運用現場での性能評価/管理の実態を学生に伝えられる方をお願いしたい。また、顧客がどのような性能をネットワークに期待/要求してきていて、それにどう応えているか、といった話もありがたい。
2024-25	継続	2023-37	ハードウェア(プロセッサ)設計・開発	プロセッサ設計、システム設計	近代のプロセッサ設計方式の詳細について学ぶ	プロセッサ自体の設計開発、またはプロセッサ性能の活用(並列処理チューニング等)を踏まえたシステム設計開発に関する内容	対面授業	10名(博士前期課程)	

NO	新規継続分類	2024年度該当No	希望する講師の業種・属性等	テーマ	講義等の目的・狙い	内容	講義形式	受講予定学生数	その他
2024-26	継続	2023-38	真空関連メーカー	真空ポンプ、圧力計など、真空技術一般	真空技術について理解を深める	第1回 固体清浄表面の特性、第2〜3回 流量とコンダクタンス、第4〜5回 物理吸着と化学吸着、第6〜7回 真空排気装置と真空計、第8回 期末試験	対面授業	80名 (博士前期課程)	講義等の内容(プログラム)で、「第6〜7回真空排気装置と真空計」の部分において、1回分の実践的な講義を企業の技術者の方をお願いしたい。
2024-27	継続	2023-39		レーザー特性の理解、レーザーの動作原理の理解、レーザーの制御方法の理解、レーザー応用技術の理解	レーザーの発振原理と特徴を理解し、先端計測技術並びに加工技術への応用に際して、どのように利用されているのかを理解し、説明できることを目的とする。	1 イントロダクション -産業におけるレーザー光の重要性、2 レーザーの性質 3 レーザーの発振原理 4 レーザー媒質 5 光制御技術 6 レーザーの出力特性および評価技術 7 レーザー応用技術 8 最近の話題	対面授業	10-20名	レーザー加工、レーザー計測などのレーザー応用技術について、実際にこれらの技術を用いている技術者による実践的な講義(1-3回)を希望いたします。
2024-28	継続	2023-40	先進的なシステム開発に携わる方	自然言語処理、音声認識、話者認証、音声合成、音声強証、機械翻訳、テキスト解析等の音声・自然言語処理技術	人にやさしい情報社会を実現するための要素技術とその応用を知る	システムの構築例、運用例などをお話し頂きたい。	対面授業	博士前期課程(1年生) 20名あまり	
2024-29	継続	2023-41	建築設計、建築パース制作、写真編集、レイアウトデザイン	CAD・CG・図面制作・モデリング・写真などの編集技術	建築設計におけるコンピュータの利活用の技術を習得する	工学部社会工学科建築・デザイン分野の2年次において建築設計のコンピュータの利活用について講義・演習を行う	対面授業	70名 (学部生)	建築設計においては、年々、最新のソフトウェアの利活用、3Dプリンタやレーザーカッターなどの利活用が多様化してきている。建築情報技術では、実社会でのコンピュータを利活用した建築設計の技術を紹介いただける専門職の方に講義と演習をお願いできれば幸いです
2024-30	継続	2023-42	素材・電子機器・光学材料／機器・計測器・化学・食品などのものづくり企業で薄膜化技術・ナノテクノロジーに携わる研究者・技術者	材料の薄膜化、ナノ構造化によって産まれる新機能と関連プロセス技術	受講生の、物質低次元化から新奇機能が産まれる理由、その作製法と応用についての理解を深めること	①薄膜化・ナノテクノロジーの概要 ②物質の低次元化で発現する現象、そのアドバンテージ ③薄膜化・ナノ構造化技術 ④最先端応用技術の紹介と将来展望	対面授業	約20名 (博士前期課程)	薄膜化・ナノテクノロジーの応用事例を受講生に理解してもらいたく、また進路検討の一助にもなればうれしいと考えております。
2024-31	継続	2023-44	固体酸化物形燃料電池の材料開発に実際に携わっている方	固体酸化物形燃料電池	新エネルギー材料のしくみを理解するとともにその応用例を知る	最新の固体酸化物形燃料電池の構成、それに用いている材料の物性、現状の問題点、その課題克服のためのアプローチ法等についてお話し頂きたい。	対面授業	約20名 (博士前期課程)	
2024-38	継続	2023-53		新エネルギー工学	化石燃料や原子力燃料に依存した体制からの脱却に向け、多様な新エネルギー源とその利用方法や問題点について学ぶ。具体的には、電力・会社・エネルギーシステム・環境系会社の技術者・研究者が、オムニバス形式により、再生可能エネルギー、バイオマス、新燃料、水素などの新エネルギー等を利用した電気エネルギーや熱エネルギーの創生と有効利用・運用について講義する。	1. 新エネルギーの概要 2. 再生可能エネルギーの現状 3. 需要家における再生可能エネルギー等の最適利用 4. 再生可能エネルギー等の系統連系における技術的要件 5. ガス、水素、熱エネルギー利用技術 6. 新エネルギーとスマートグリッド技術 7. 地球温暖化問題  この中の6または7、あるいは両方の担当をお願いしたい。各90分。	対面授業	50名程度	
2024-39	新規		食品成分(構造が明確な化合物や酵素)を製造している原料メーカーを希望。技術系の社員(研究・開発・製造など)を講師として希望。	食品化学	食品成分の化学構造・性質・化学変化について学ぶ	教科書(食品学I、羊土社)の内容に沿って、食品の5大栄養素の一次機能・二次機能・三次機能や、化学構造について理解する。	対面授業	90名程度(主に生物資源学部・生命化学コースの2年生)	

## ⑥課題解決型講義(PBL)

2024-41	継続	2023-50	業種、属性など特に指定はありません。BtoBでもBtoCでもOKです。	科目名「キャリア実践」当該企業の使命、業界の状況や取り巻く社会情勢などに触れながら、企業としての課題や重視する取り組みについてお話いただく。	産学協同授業として、1、2年生を対象に、企業が取り組む「リアルな課題」を学生に提示して「社員」という意識で取り組ませる。授業を通じて社会に出る上で必要な主体性、知識、能力、論理的思考、コミュニケーション能力を鍛える。	3回ご出講いただきたく存じます。1回目は講義(会社の紹介、使命、業界を取り巻く状況、社会情勢、現在の課題、学生たちへの課題提示等)。2回目と3回目は、課題に対する学生たちのプレゼン、その評価、指導をお願いします。	対面授業	40名程度	(1)日程 ・日程A: 2025年10月24日、11月14日、11月28日の3回 ・日程B: 2025年12月12日、12月26日、2026年1月26日の3回 4時限(14時半〜16時)を予定 (2)3回のご出講のうち、初回は企業様の講義で、その中で学生たちに「課題」を提示していただきます。学生たちはその課題に対してチームで取り組みます。2回目、3回目の授業では、学生たちが課題に対する中間プレゼン、最終プレゼンを行いますので、それに対して評価、コメント、ご指導をお願いします。 (3)授業の趣旨・目的・構成などご理解いただくため、6月〜8月の間に「授業研究会」(2時間程度)を行います。オンラインを予定しており、日程は後日調整させていただきます。
---------	----	---------	-------------------------------------	------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------	-------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

NO	新規継続分類	2024年度該当No	希望する講師の業種・属性等	テーマ	講義等の目的・狙い	内容	講義形式	受講予定学生数	その他
⑦会社・工場見学									
2024-43	新規		業種を問わず、文系出身者の働く現場を見学・体験させていただける企業を希望	キャリア特論	企業から提示されたリアルな課題にグループで取り組んだうえで企業現場を経験することで、「働く」ことの意味を熟考するとともに、自身の望む「職業人生」とそれを実現するために不可欠な能力を明確化する。グループワークと課題解決のプレゼンテーションが本講義の基本となる。	・企業・業界紹介 ・課題提示 ・職場体験 ・学生プレゼンテーションに対する質疑・評価	職場見学と可能な範囲での職務体験を希望	10～20名	
2024-44	新規		製造業	工場見学	中学校技術科や高校工業の教員を目指す学生に産業の現場のあらましが分かる説明をまじえた見学会をお願いしたい		対面授業	約10名	
2024-45	継続	2023-54	輸送機械工業(・可能であれば講師は文系出身の方)	「自動車産業、業界の動向」(「社会フィールドワーク」における1講義として)	・日本の自動車産業がどのような様相を呈しているのかを概観する。・文系学生はモノづくりを売上高など業績で計る傾向にあるが、その業績が当該企業のどのような取り組みによるものなのかを可視化して頂き、受講者の理解も深める。また、これらの取り組みを担うは、技術系人材だけではなく文系人材であることも理解させる。	・企業紹介 ・日本の自動車産業について(世界の動向も踏まえて頂けると一層、ありがたいです)	対面授業	約20名	・大学教員による一方的な講義から自動車産業の概要を知るだけでなく、実際に産業に携わっておられる企業の「生の声」を頂きたいと希望します。 ・自動車産業だけではなく、CASEやMaaSといった新しい動き(モビリティ産業)の話に触れて頂いても結構です(ありがたいです)。
2024-46	継続	2023-55	輸送機械工業	・企業紹介、自動車産業における同社の位置付けについて ・工場見学(「社会フィールドワーク」における講義として)	・自動車産業が多層なプレイヤー企業から織りなる産業であることを理解する ・受講者は文系学生だが、製造業企業でも文系出身者が活躍する場が多くあることを実感する	・企業紹介 ・工場見学	対面授業	約20名	輸送機械工業、なかでも自動車産業は日本経済の屋台骨であることは自明ですが、それが何層にも連なるサプライヤーからなるモノづくりで成り立っていることを、学生はさほど理解できていません。主要プレイヤーは完成車企業だけではなく、部品を開発、生産するサプライヤーも重要な存在であることを理解して欲しいと考えます。
2024-47	継続	2023-56	地域金融機関	「中小企業と金融」(「中小企業政策論」における1講義として)	・中小企業の活力を向上する担い手として地域金融機関の存在がある。「政策」は行政が講じる支援がメインだが、金融機関など多くのサポートがあり、中小企業経営が成り立っていることの理解を深める。・将来、金融機関を志す受講生に、地元中小企業とのかかわり方の一例をお伝え頂く	・地域金融機関による中小企業支援について	対面授業	約200名	中小企業支援は数多ございますが、昨今では金融機関による中小企業支援にも注目が集まります。特に地域産業と中小企業という枠組みにおいても、地域金融機関が果たす役割は大きく、その地域や産業集積に見合ったプログラムが展開されています。プログラムでは、実際に中小企業支援に携わる方から、「中小企業支援が何につながるのか」について強調頂けますと幸いです。
2024-48	継続	2023-58	業種不問・短大卒業等の正社員が活躍している企業や職場	地元企業・工場見学 ～仕事現場に学ぶ～	仕事の現場を実際に見学することで、学生の就業意識を高める。	企業紹介、職場(会社・工場等)見学、社員や卒業生との懇談、質疑応答など	対面授業	豊橋校舎所属の短期大学部生1年生(女子学生のみ約30名)	
2024-49	継続	2023-59	家電リサイクル中間処理の実務に携わっている経験豊富な方	家電リサイクル中間処理工場の見学・解説・質疑	3年生後期配当科目「資源循環工学」の中の、“家電リサイクル法”の回において、実際に中間処理工場を見学し、専門技術者の説明を聴くことで理解を深め、環境分野の技術者としての意識を向上させる。	家電リサイクル法の対象となっている4品目の中間処理工程を実際に見学し、最先端のリサイクル技術を学ぶとともに、リサイクルシステムが成立するための条件等について自ら考える。	対面授業	約30名	
2024-50	継続	2023-60	製造業	生産ライン見学・原価計算(原価管理)担当者との懇談	コストマネジメントへの取り組みについて知ること。	・企業紹介 ・生産ライン見学 ・社員(原価計算・原価管理の担当者)との懇談 ・質疑	生産ラインの見学と対面による懇談	20～50名程度	生産ラインを見学したのちに、原価をコントロールして利益を導くために、どのような取り組みをされているのかについてお話を頂戴したい。
2024-51	新規			工場見学/職場見学	産業や組織に関する心理学の知見が現場でどのように活かされているか、活かすことが出来るかを考えること。	企業紹介、工場見学/職場見学、社員の方との懇談や質疑	対面授業(工場見学/職場見学)	10～25名	

NO	新規継続分類	2024年度該当No	希望する講師の業種・属性等	テーマ	講義等の目的・狙い	内容	講義形式	受講予定学生数	その他
<b>⑧インターンシップ、企業内実習の受け入れ</b>									
2024-52	継続	2023-63		博士後期課程実務訓練	大学院博士前期課程、後期課程で身につけた研究能力を、企業、研究機関などで日常行われている研究、開発、設計などの実務を通して実践することにより、企業等での問題把握方法、解決策の選択やアプローチの実際を知る。訓練指導者あるいは担当者との密接な議論と実践を通じて、将来指導的技術者となるために必要な人間性の陶冶を図るとともに、実践的な技術感覚を磨く。 博士号取得者は増加していますが、企業への就職は必ずしも順調とは言えません。企業のニーズと博士号取得者のシーズあるいは方向性の相違が問題視されています。そこで、博士取得者が社会のニーズに合致し社会に貢献できるよう、博士後期課程の学生を企業における実務訓練に派遣します。	基本的に、指導教員と受け入れ先との間で訓練テーマに関する事前打合せとマッチングが行われていることを前提とする。典型的には、所属研究室と共同研究テーマのある企業が、学生を長期間受け入れて研究開発活動に共同で従事することが想定されている。			<ul style="list-style-type: none"> <li>URL <a href="http://www.tut.ac.jp/university/training.html">http://www.tut.ac.jp/university/training.html</a></li> <li>本学では既に30年以上にわたり、4年次の実務訓練を実施してきている。課題解決型実務訓練や博士後期課程実務訓練は、長期かつ高度なインターンシップ活動を可能にする枠組みである。</li> <li>これまでも多くの企業で受け入れて頂いているが、新規派遣先を随時開拓している。</li> <li>就職活動時に実務訓練派遣先を受験するものは多く、実際に入社に至る者も一定数いる。</li> </ul>
2024-53	継続	2023-64		課題解決型実務訓練(海外)	学部から大学院博士前期課程に進学する学生を対象に、社会との密接な接触を通じて、指導的な技術者として必要な人間性の陶冶を図ることを目的に学部4年次で実施する2か月の実務訓練に加え、4か月の期間にわたり企業・研究機関等の専門分野が抱える課題の解決に引き続き取り組ませ、学生に実践的な技術感覚を体得させ、実践的課題解決能力や企画力、創造力を養成することを目的とします。	本学の学部4年生は、12月までに卒業研究(論文執筆、発表会)を済ませたあと、1~2月(7週間)企業等において実務訓練に従事する(必修科目)。 「課題解決型実務訓練」では、1~2月の「実務訓練」に引き続き大学院博士前期課程1年次の5月末まで、およそ5か月にわたって企業で実務に従事して技術的課題の解決に取り組む。 基本的に、指導教員と受け入れ先との間で訓練テーマに関する事前打合せとマッチングが行われていることを前提とする。典型的には、所属研究室と共同研究テーマのある企業が、学生を長期間受け入れて研究開発活動に共同で従事することが想定されている。		多くの受け入れ先に分散して配属される。通常、1か所1~4名程度。	<ul style="list-style-type: none"> <li>技術者を目指す学生(工学部)に実際の現場を見せたい。</li> <li>できれば働いている社員の方と意見交換する時間を設けてもらい、最新技術の動向、研究に取り組む姿勢などについて学ばせたい。</li> </ul>
2024-54	継続	2023-65		課題解決型実務訓練	学部から大学院博士前期課程に進学する学生を対象に、社会との密接な接触を通じて、指導的な技術者として必要な人間性の陶冶を図ることを目的に学部4年次で実施する2か月の実務訓練に加え、4か月の期間にわたり企業・研究機関等の専門分野が抱える課題の解決に引き続き取り組ませ、学生に実践的な技術感覚を体得させ、実践的課題解決能力や企画力、創造力を養成することを目的とします。	本学の学部4年生は、12月までに卒業研究(論文執筆、発表会)を済ませたあと、1~2月(7週間)企業等において実務訓練に従事する(必修科目)。 「課題解決型実務訓練」では、1~2月の「実務訓練」に引き続き大学院博士前期課程1年次の5月末まで、およそ5か月にわたって企業で実務に従事して技術的課題の解決に取り組む。 基本的に、指導教員と受け入れ先との間で訓練テーマに関する事前打合せとマッチングが行われていることを前提とする。典型的には、所属研究室と共同研究テーマのある企業が、学生を長期間受け入れて研究開発活動に共同で従事することが想定されている。		多くの受け入れ先に分散して配属される。通常、1か所1~4名程度。	<ul style="list-style-type: none"> <li>URL <a href="http://www.tut.ac.jp/university/training.html">http://www.tut.ac.jp/university/training.html</a></li> <li>本学では既に30年以上にわたり、4年次の実務訓練を実施してきている。課題解決型実務訓練は、実務訓練をさらに発展させ、長期かつ高度な活動を可能にする枠組みである。</li> <li>これまでも多くの企業で受け入れて頂いているが、新規派遣先を随時開拓している。</li> <li>派遣先募集は7~9月、学生の配属調整は10月、企業への派遣依頼は11月頃である。</li> <li>就職活動時に実務訓練派遣先を受験するものは多く、実際に入社に至る者も一定数いる。</li> </ul>
2024-55	継続	2023-66		実務訓練	企業・官公庁等で実務に従事し ・業務遂行のためのコミュニケーション ・他の科目で習得した知識の活用法 ・業務に関する実践的思考力(スケジュール計画と時間管理、判断力、他)等を習得するとともに、それらの重要性を認識する。	本学の大学4年生は、12月までに卒業研究(論文執筆、発表会)を済ませたあと、1~2月(7週間)企業等において実務訓練に従事する(必修科目)。 本学の実務訓練の特徴は以下の通りである。 ・卒業研究まで終わった4年生、すなわち新卒者相当の学生が履修する。 ・就労体験を目的とした3日程度のインターンシップと異なり、7週間の実務訓練では社員の指導のもと実務の一端を経験し担当することを目的とする。 ・実務訓練を履修することにより、自らの能力・経験と希望する職務とのマッチングあるいはギャップを体得することができる。それを元に大学院進学後の研究・学習活動を充実させ、さらに就職活動においても自信をもって職種・職業を選ぶことができる。		多くの受け入れ先に分散して配属される。通常、1か所1~4名程度。	<ul style="list-style-type: none"> <li>URL <a href="http://www.tut.ac.jp/university/training.html">http://www.tut.ac.jp/university/training.html</a></li> <li>本学では既に30年以上にわたり、上記の方法で実務訓練を実施してきている。</li> <li>これまでも多くの企業で受け入れて頂いているが、新規派遣先を随時開拓している。</li> <li>派遣先募集は7~9月、学生の配属調整は10月、企業への派遣依頼は11月頃である。</li> <li>就職活動時に実務訓練派遣先を受験するものは多く、実際に入社に至る者も一定数いる。</li> </ul>
<b>⑨外国人材の活躍支援</b>									
2024-56	継続	2023-67	外国人の採用を積極的に行っている企業(オフィスワーク中心)で、採用・人材に対する立場や理念を説明できる方。CSRに関わる部署の方が望ましい。	職場における多文化共生	外国人の採用を積極的に行っている企業(オフィスワーク中心)において、採用・人材に対しどのような立場や理念を持っているか、国籍や文化の異なる社員同士と一緒に働く上で気を使っている点やその工夫などをお話いただき、身近な多文化共生について学び、考えるきっかけを与える。	春学期(4月初~7月末 金曜日9:00~10:30)期間中の1コマで1時間程度の講演をしていただき、その後質疑応答10分、講演の感想レポート作成20分。	対面授業希望だが、オンラインでも可	100人 (人文社会学部2年生80人、3~4年生20人)	
2024-57	継続	2023-68	英語でご対応頂けると、留学生の参加者が増える(難しい場合は、日本語でも構いません)。	社会人と学生が連携した課題解決学習	社会人&学生の交流会(ワークショップ)	ダイバーシティ化を推進する企業様の社員の方々に本学までお越し頂き(或いは本学学生が企業様を訪問させて頂き)、学生とともに企業様が直面しているビジネス上の課題を共に考えるワークショップの機会を作りたく思います。	オンライン授業、対面授業が可能な状況になれば対面授業	約25名~50名	英語でこのようなことを対応頂けると、留学生の参加者が増えます(難しい場合は、日本語でも構いません)。
2024-58	継続	2023-69		留学生インターンシップ	留学生に特化したインターンシップの実施	留学生を対象としたインターンシップの機会を頂ければ幸いです。本学の留学生は、日本語検定能力試験2級以上は保有しており、日本語でのコミュニケーションは概ね慣れています。ただ、就職を検討する際に、どうしても就業経験の乏しさから、「働く」ことを具体的にイメージできない傾向が強く、是非多くの中部圏企業様より2週間程度(願わくば1ヶ月以上)のインターンシップの機会を頂きたい。	対面	※対象学生(総数)は30~80名程度	1日のみ実施するインターンシップが最近増えておりますが、留学生には企業活動や「働く」ことへの理解を深めるには時間が足りないようです。そのため、長期でのインターンシップの機会を、多くの企業様より頂戴できれば有難く思います。